

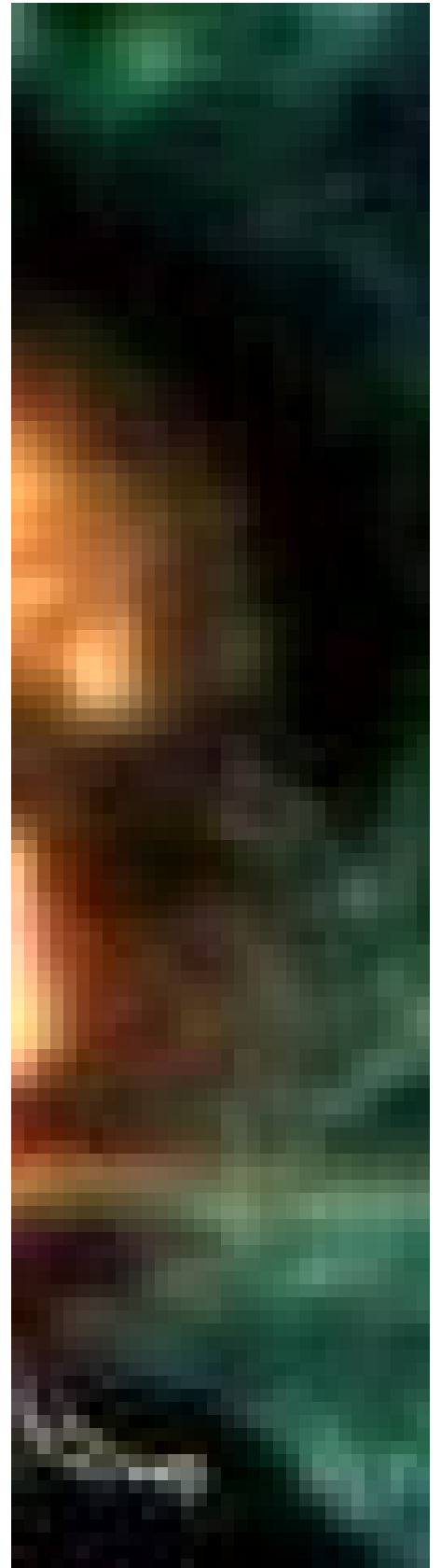
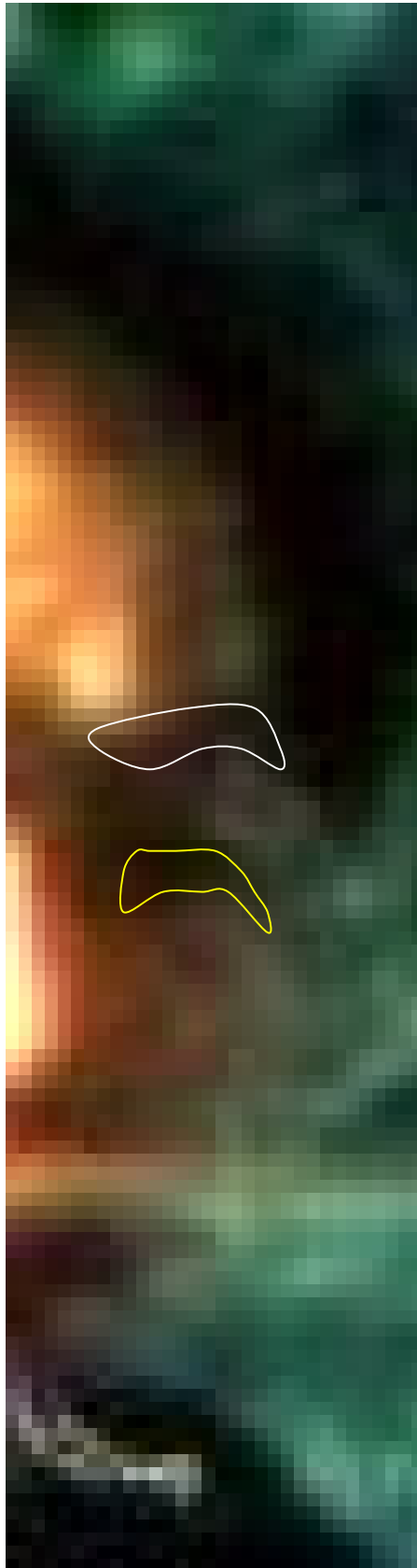
眉と目尻について

この2枚の写真もコントラスト等を強調したものだが、明らかに左の眉と目が右側の眉と目よりは大きいのが、撮影角度からそうなることはありえない。

写真の中で線を加えた部分が目や眉でなく、背景の一部が含まれているというなら、額と頭髮の隙間にある色が違う部分も背景の一部ということになるが、その様なことがあるはずもなく、この写真の片岡の顔の右半分と左半分のバランスが狂っているのは間違いない。

写真Dは出来の悪い合成写真であるとしか説明の出来ない写真である。もし、そうとはいきれないというならば、ネガフィルムの検証をするなどして、その理由を合理的に説明をしなくてはならない。

以上の写真の異常さが撮影時の手ブレや片岡が動いたことによることが原因ということも考えられない。顔の左半分だけが大きく動く人間などはいないからだ。



輪郭について

左の写真において白線で片岡の顔の輪郭をなぞってみたが、どうにも不自然であることがあきらかになる。撮影角度からして、顔左半分が見かけ上小さくなるはずであるが。そうなのではない。

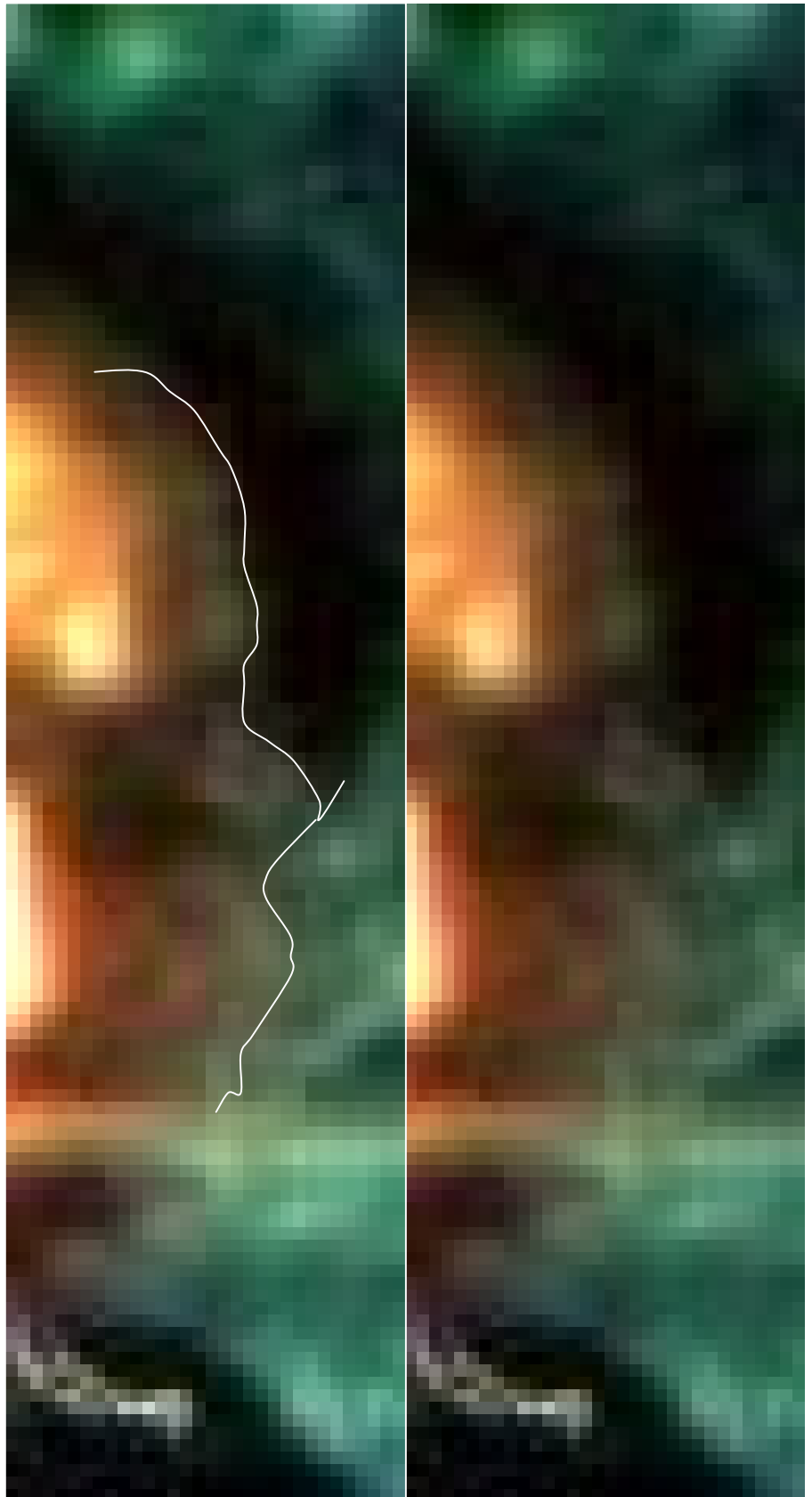
片岡の背後に誰か別人がいて、こちらを覗き込んでいるように見える。

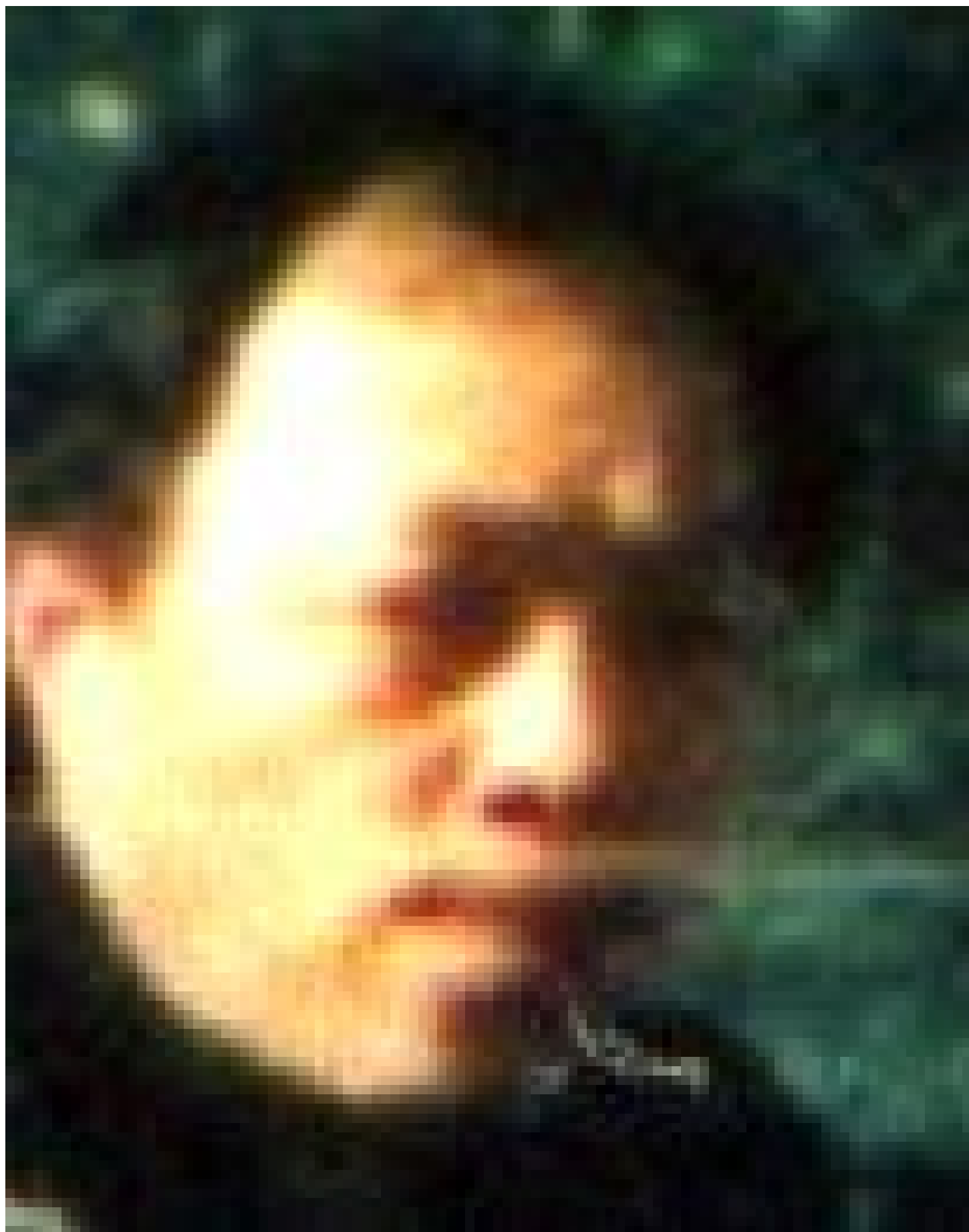
もちろんそんなことはありはないのだが、写真Dを撮影した際、片岡でなく警官が運転席にいた可能性は否定できない。

その警官の画像に土佐署や事故現場東のレストラングローリーでバスの中の片岡を撮影した画像を重ねたともいえる。

その具体的な方法は後述するが、今日のデジタル加工技術水準はその程度のことを容易にしている。このことは、最近の映画などに使用されるコンピュータグラフィック技術をみればあきらかで、動きのない写真のデジタル加工は家庭用パソコンと安価な加工ソフトがあれば、さほどの技術も必要なしに精巧な合成写真が作成できるのは周知のことだ

なお 右2枚の写真は画像のコントラストと明るさをデジタル技術で変更して、輪郭を強調している。





写真D



片岡の輪郭が際立って異常であるのはこの写真Dである。



上の写真（左）も一見すれば、なんら違和感があるものではないが、右の写真の白線で囲まれた部分に注目して拡大写真を検証してみる。

片岡の右斜め前方より撮影されていて、片岡はカメラに視線をむけるとともに、顔を少し右に向けていることが確認できる。通常この角度で撮影されると顔左半分の見かけ上の面積は右側より小さくなるはずだが、この写真ではカメラの死角に入り写らないはずの部分まで撮影されている。この他以下の部分に注目する。

- 1、頭髮部分において、額と頭髮の境目に不自然な色の部分が発生している
- 2、片岡の左眉と左目の目じりの長さ
- 3、左ほほ骨